

第10回

くじゅう

山の安全を祈る集い

今を去ること89年前、昭和5年(1930年)8月11日、この日はちょうど九州本土を台風が襲っていましたが、折り悪しく久住山へ登山中、道に迷った福岡県の若者が二人、雨風にうたれ、御池の付近をさまよい歩くうちに力尽き倒れてしまいました。今で言う低体温症でしょう。これが記録に残る九重山での初めての遭難死亡事故となっています。その跡には遺族が慰霊碑を建てて、その碑が今も残っています。

しかしこの碑が、長い年月の間に崩壊し、石碑は倒れたままになっていましたが、遭難事故からちょうど80年目の平成22年、この石碑を立て直そうと日本山岳会会員やその山仲間たちが機材や材料を担ぎ上げて修復し、石碑修復と遭難者の慰霊の式典を行ったのが始まりです。それ以来「くじゅう・山の安全を祈る集い」として、毎年8月第1日曜日に、この碑の前で慰霊と山の安全祈願を行うようになって今年で10年目となります。

この行事は公益社団法人日本山岳会東九州支部と法華院温泉山荘が共催で実施しており山荘のオーナーで法華院白水寺弘蔵岳久第28代院主の読経のもとで行われます。

日時 8月4日(日) 午前11時から

場所 久住山御池南の遭難慰霊碑前

参加対象 山登りが好きで、山の安全登山を考える人はどなたでも参加できます。ご一緒に参加し、山の安全をお祈りしましょう。

参加方法 午前11時までに現地集合。希望者には牧ノ戸峠からご案内いたします。

問い合わせ等 東九州支部 支部長 加藤英彦 (097-543-0333・090-3607-7903)

または事務局長 飯田勝之(0977-21-3437・090-2503-8409)まで

慰霊碑付近の地図



写真は昨年の集いの様子



